

図1 種苗密度と2月のクロロフィルa濃度および母貝の成長不良年との関係
太線は予測線、細線はランダムエラーの90%信頼区間(N=採苗器100g当たりの種苗数、マーク横の数字は西暦の下2桁)

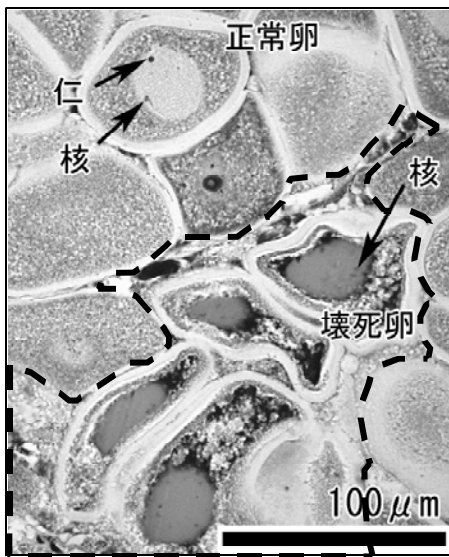


図2 卵巣の組織写真(点線で囲った部分が壊死卵で占められている部分)

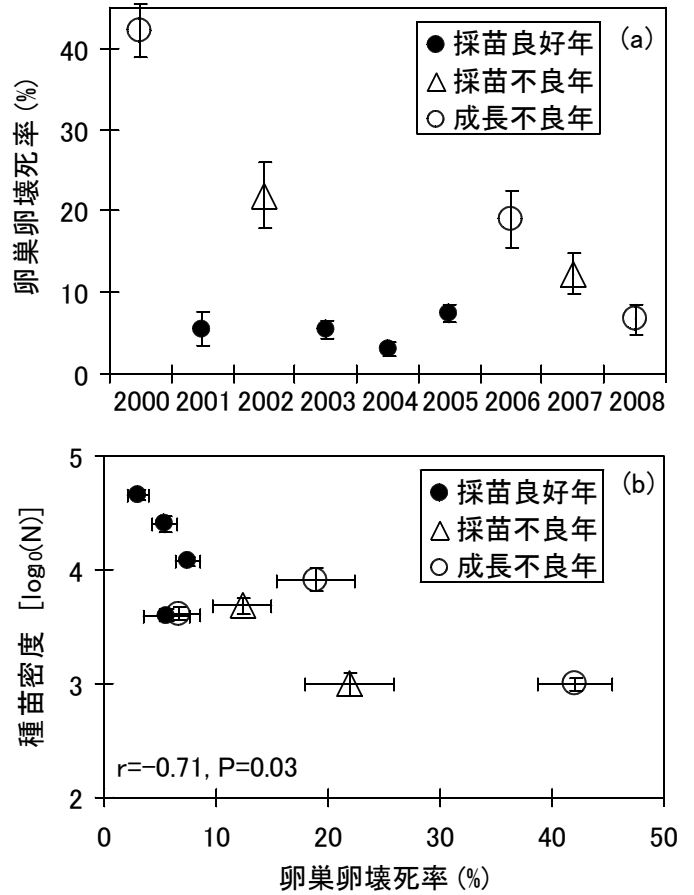


図3 (a) 卵巣卵壊死率の年変動、(b) 卵巣卵壊死率と種苗密度の関係

図中の縦棒と横棒は標準偏差

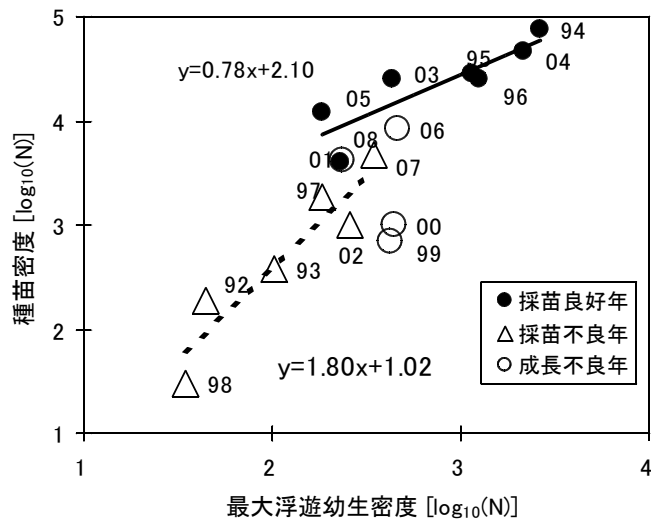


図4 種苗密度 (N=採苗器100g当たりの種苗数) と沿岸部での最大浮遊幼生密度 (N=1m³当たりの浮遊数幼生) の関係

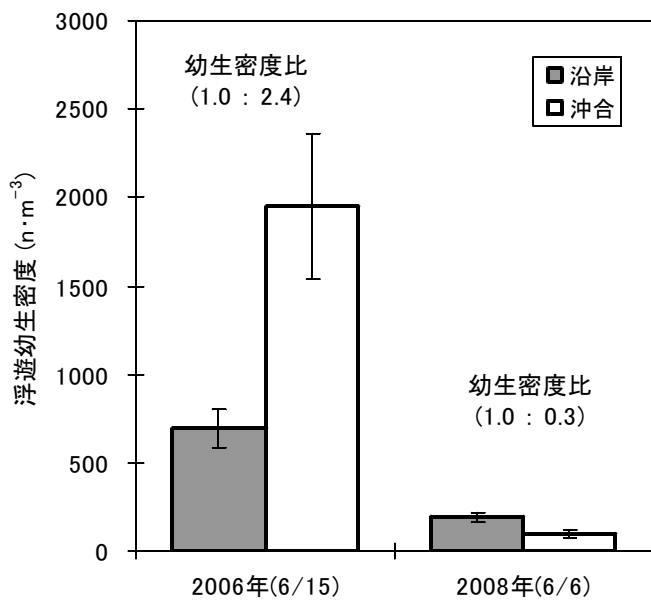


図6 浮遊幼生密度の沿岸部と沖合部の比較
2006年：表層水の渦が強かった年(予測が当たった年)、2008年：渦の形成が弱かった年(予測が外れた年)

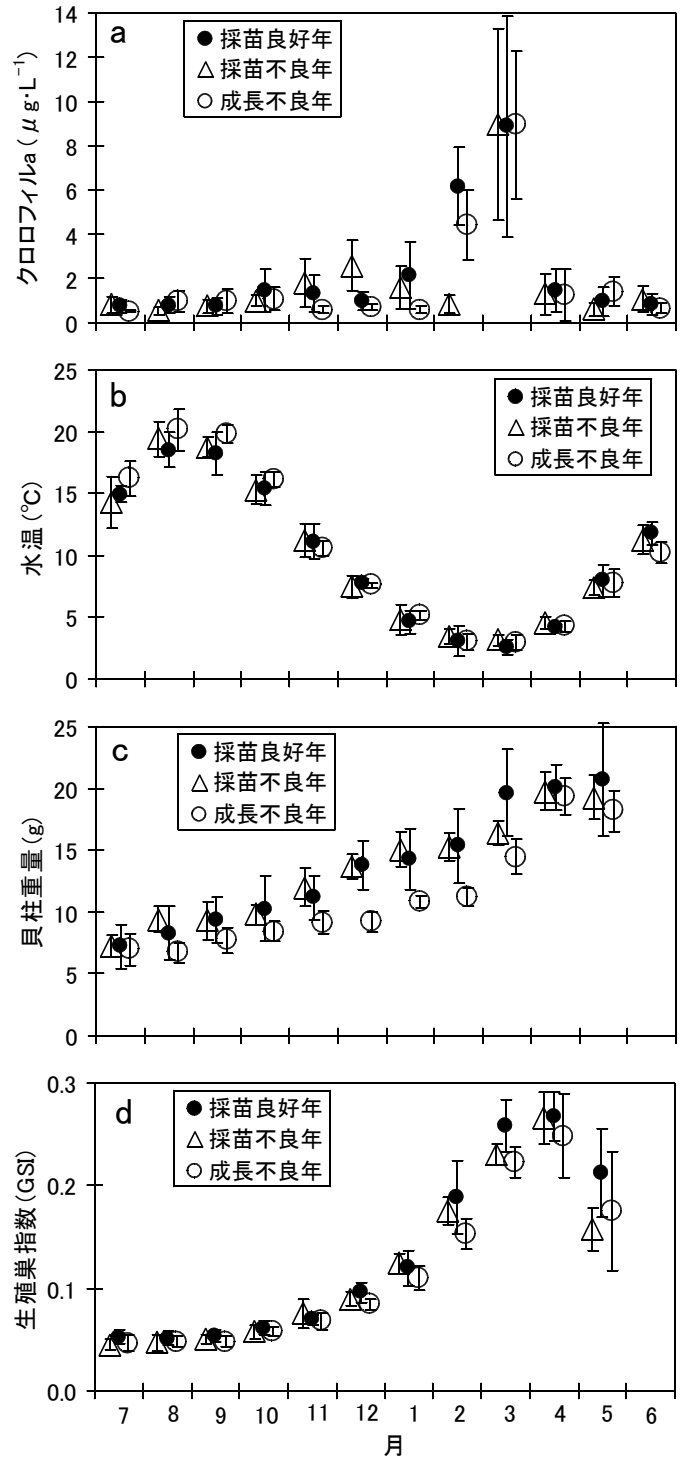


図5 水温、クロロフィルa濃度、貝柱と生殖巣指数 (GSI) の季節変化 (1992~2008年)